

OLYMPUS

Your Vision, Our Future

2015年3月期 第3四半期 連結決算概況と通期見通し

2015年2月6日
オリンパス株式会社
取締役専務執行役員
グループ経営統括室長
竹内 康雄

- オリンパスの竹内です。
- それでは、この第3四半期の決算概況についてご説明申し上げます。

2015年3月期 第3四半期 連結業績および事業概況

- まず、決算業績についてご説明申し上げます。

第3四半期決算のハイライト

第3四半期業績

医療事業が牽引し、大幅な営業増益を確保 (リーマンショック以後、過去最高)

通期見通し

従来の年間計画を達成できる見込み

財務体質

自己資本比率が約39%に向上

- 第3四半期決算における主なポイントはこちらの3点です。
- 1点目は、医療事業が全社業績を牽引し、大幅な増益を達成、リーマンショック以降の過去最高業績となりました。
- 2点目ですが、こうした順調な第3四半期までの状況を受け、年間見通しも引き続き達成できると見込んでいます。
- 3点目は、財務体質が着実に強化され、自己資本比率も約39%まで改善しました。

2015年3月期 第3四半期実績 ①連結業績概況

- ① リーマンショック（2008年度）以降、3Q累計営業利益として最高となる621億円
- ② 3Q累計当期純利益は前年同期比約5倍となる319億円
- ③ 四半期ベースでも、前年同期を上回る営業利益を確保

(単位：億円)	3Q累計 (4-12月)				3Q実績 (10-12月)		
	2014年3月期	2015年3月期	増減額	前年同期比	2014年3月期	2015年3月期	前年同期比
売上高	5,137	5,500	+363	+7%	1,798	1,950	+8%
販管費 (販管費率)	2,674 (52.1%)	2,884 (52.4%)	+209 (+0.3pt)	+8%	911 (50.6%)	1,014 (52.0%)	+11%
営業利益 (営業利益率)	499 (9.7%)	① 621 (11.3%)	+122 (+1.6pt)	+24%	214 (11.9%)	③ 236 (12.1%)	+11%
経常利益 (経常利益率)	341 (6.6%)	482 (8.8%)	+141 (+2.2pt)	+41%	172 (9.5%)	185 (9.5%)	+8%
当期純利益 (当期純利益率)	58 (1.1%)	② 319 (5.8%)	+261 (+4.7pt)	+446%	138 (7.7%)	96 (4.9%)	△30%
円/US\$	99円	107円	7円 (円安)				
円/Euro	132円	140円	8円 (円安)				
売上高への影響額	-	+276億円					
営業利益への影響額	-	+80億円					

2015/2/6 No data copy / No data transfer permitted

4

- それでは、連結の業績概況からご説明いたします。
- 引き続き、好調な医療事業が全社業績を大きく牽引しました。連結売上高は前年同期比7%増収の5,500億円、営業利益は24%増益の621億円となりました。
- 経常利益は、営業外収支の改善等により、前年同期比 41%増の482億円となりました。
- 以上の結果、純利益は、前年同期比 約5倍の319億円となり、全利益項目において、前年を大きく上回る実績となりました。
- なお、四半期ベースの3ヶ月でみた営業利益も、高水準であった前年の第3四半期を上回る実績となりました。

2015年3月期 第3四半期実績 ②セグメント別概況

- ① 医療事業 : 売上高・営業利益ともに3Q累計として過去最高を更新し、全社業績を牽引
- ② 科学事業 : 北米において、ライフ・産業各分野が好調に推移し、増収増益
- ③ その他事業 : バイオロジクス事業からの撤退により黒字化

(単位: 億円)	3Q累計 (4-12月)				3Q実績 (10-12月)				
	2014/3	2015/3	増減額	前年同期比	2014/3	2015/3	増減額	前年同期比	
医療	売上高	3,515	3,981	+466	+13%	1,217	1,413	+197	+16%
	営業利益	786	840	+54	+7%	294	294	+0	+0%
科学	売上高	676	728	+52	+8%	236	261	+25	+11%
	営業利益	21	36	+15	+73%	15	23	+8	+53%
映像	売上高	750	643	△107	△14%	280	242	△38	△13%
	営業利益	△44	△62	△18	-	△17	△16	+1	-
その他	売上高	196	148	△48	△24%	66	34	△33	△49%
	営業利益	△44	9	+53	-	△16	2	+17	-
全社・消去	売上高	-	-	-	-	-	-	-	-
	営業利益	△220	△202	+18	-	△63	△66	△4	-
連結合計	売上高	5,137	5,500	+363	7%	1,798	1,950	+152	+8%
	営業利益	499	621	+122	+24%	214	236	+22	+11%

2015/2/6 No data copy / No data transfer permitted

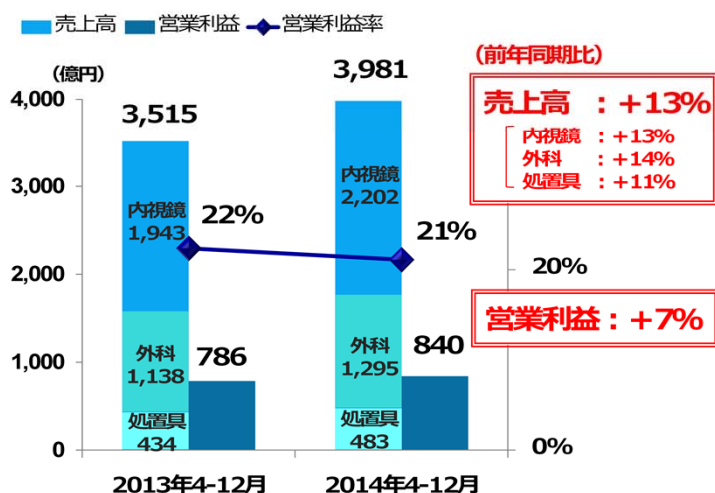
5

- 続いて、セグメント別の業績概況です。
- ご覧の通り、過去最高となる業績を計上した医療事業が全社業績を大きく牽引しています。
- 科学事業も、市況が回復傾向にある北米において、ライフサイエンス分野、産業分野がそれぞれ好調に推移し、大幅な増収、増益となりました。
- また、その他事業も、前年にバイオロジクス事業から撤退したことにより、大幅に利益改善しています。
- それでは、事業別にもう少し詳しくご説明します。

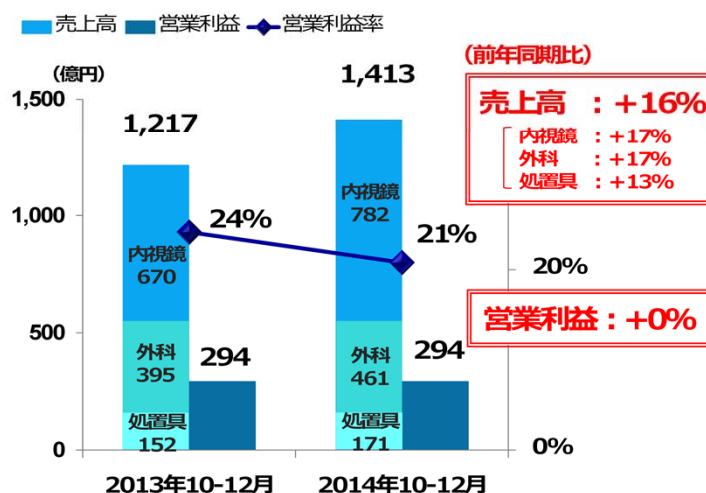
2015年3月期 第3四半期実績 ③医療事業

- ◆3分野すべて2桁成長し、3Q累計として過去最高の売上高、営業利益を計上
- ◆戦略投資も計画通りに進捗（要員強化進捗：年間1,000名増員目標に対して約90%の進捗）

3Q累計 (4-12月)



3Q (10-12月)



2015/2/6 No data copy / No data transfer permitted

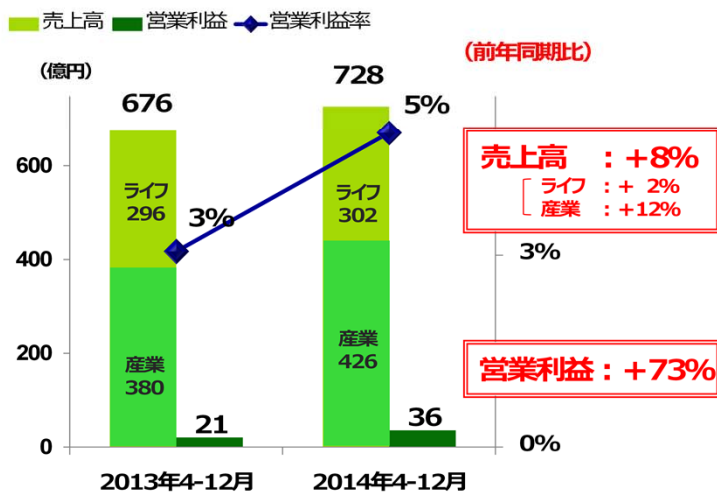
6

- まずは、医療事業です。
- 売上高は、前年同期比13%増の3,981億円、営業利益は7%増の840億円と、過去最高の売上高、営業利益を計上しました。
- 主力の消化器内視鏡ですが、国内では、国公立・大学病院などの公的病院を中心に昨年末の衆議院解散総選挙による予算執行遅れの影響が見られましたが、北米、欧州、アジアなど海外において、エクセラスリー等の販売が好調に推移し、全体で13%増収となりました。
- 外科分野は、従来の2D内視鏡の堅調な販売に加えて、昨年投入した3D内視鏡システムの拡販も寄与し、引き続き各診療科領域において順調に売上を伸ばしました。また、重点領域であるエネルギーデバイスについても、サンダービートが日本、欧州、アジアで大きく販売を拡大し、エネルギーデバイス全体で20%を超える成長となりました。これら主力製品の寄与により、外科分野全体では14%の増収となりました。
- 処置具分野は、販売体制強化の効果によって、海外を中心に成長し、11%の増収となりました。
- また、全分野で堅調な成長を続ける一方で、今期の重点施策である戦略投資も着実に進めております。
- 特に重要な要員強化については、年間1,000名規模の増員目標に対して90%程度進捗しており、販売促進、研究開発投資の各項目についても予定通り進んでいます。
- なお、営業利益率の低下は、この戦略投資によるものであり、従来の見通しに沿ったものです。

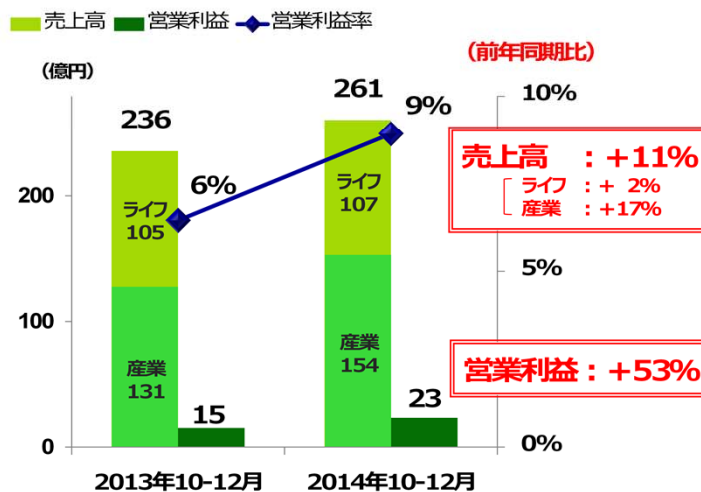
2015年3月期 第3四半期実績 ④科学事業

- ◆北米のライフ・産業各分野が好調に推移し、3Q・3Q累計共に増収増益を確保
- ◆戦略的変換、構造改革によるコスト削減効果が徐々に顕在化し、利益率が改善

3Q累計 (4-12月)



3Q (10-12月)



2015/2/6 No data copy / No data transfer permitted

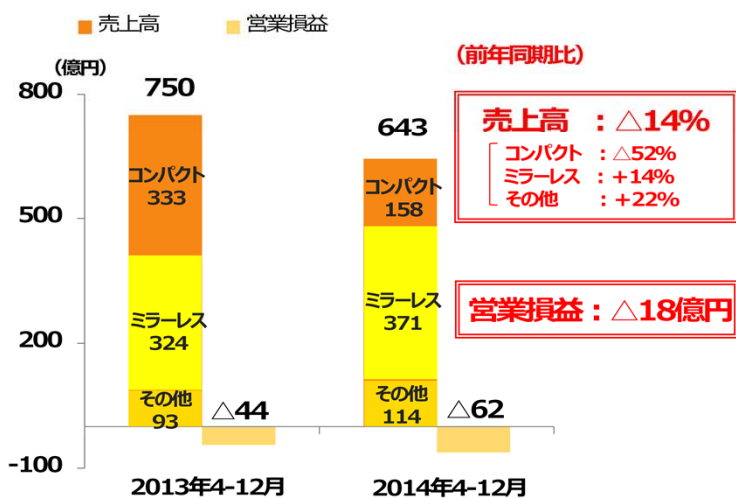
7

- 科学事業です。
- 売上高は、前年同期比8%増の728億円、営業利益は前年同期比 73%増の36億円となりました。
- 北米の景気回復にともない、大学・病院などの研究機関や民間企業の設備投資が上向いたことで、生物顕微鏡分野、非破壊検査分野が好調に推移し、増収、増益となりました。
- また、重点施策である構造改革も、計画通りに進捗しており、利益率の改善や、営業増益に寄与しています。

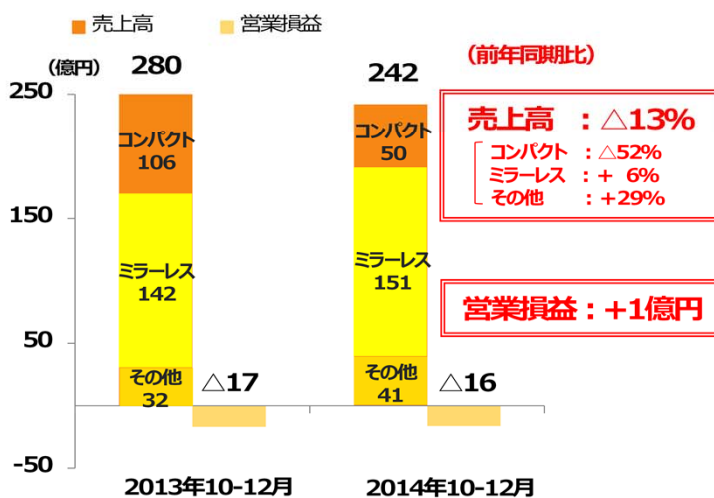
2015年3月期 第3四半期実績 ⑤映像事業- (1)

- ◆コンパクトの規模縮小により前期比14%減収も、ミラーレスの増収傾向は継続 (+14%)
- ◆ミラーレス及びB to Bの投資増加により営業損失は62億円

3Q累計 (4-12月)



3Q (10-12月)



2015/2/6 No data copy / No data transfer permitted

8

- 続いて映像事業です。
- 売上高は、コンパクトカメラの販売台数を大幅に縮小したことを主な要因として、前年同期比14%減の643億円となりました。
- 一方、ミラーレスについては、主力のOM-Dシリーズが販売を伸ばし、売上高は前年同期比14%増収の371億円となり、引き続き増収傾向が継続しています。
- また、営業利益につきましては、売上高が全体で減収となったことに加え、ミラーレスや、B to Bビジネスへの投資を行ったことにより、前年同期比で損失が拡大し、62億円の営業損失となりました。
- このように売上高が減少する状況ではございますが、10-12月期（第3四半期）だけを見ますと、販管費の削減により、前年同期比で損益の改善が図れています。

2015年3月期 第3四半期実績 ⑤映像事業- (2)

◆ミラーレスの売上高が計画を下回り、営業損失は拡大

◆広告宣伝費等の削減により、3Q (10-12月期) の販管費率は下半期の見通しを上回る改善

(単位: 億円)	3Q累計 (4-12月)			3Q実績 (10-12月)			【ご参考】
	2014.3期	2015.3期	増減額	2014.3期	2015.3期	増減額	2015.3期下半期 (10-3月/見通し)
売上高	750	643	△107	280	242	△38	499
ミラーレス	324	371	+47	142	151	+8	327
コンパクト・その他	426	272	△154	137	91	△46	172
売上総利益	337	281	△56	116	99	△17	222
販管費	380	343	△38	133	115	△18	251
(販管費率)	(50.7%)	(53.3%)	(+2.6pt)	(47.5%)	(47.6%)	(+0.1pt)	(50.3%)
営業損益	△44	△62	△18	△17	△16	+1	△29

2015/2/6 No data copy / No data transfer permitted

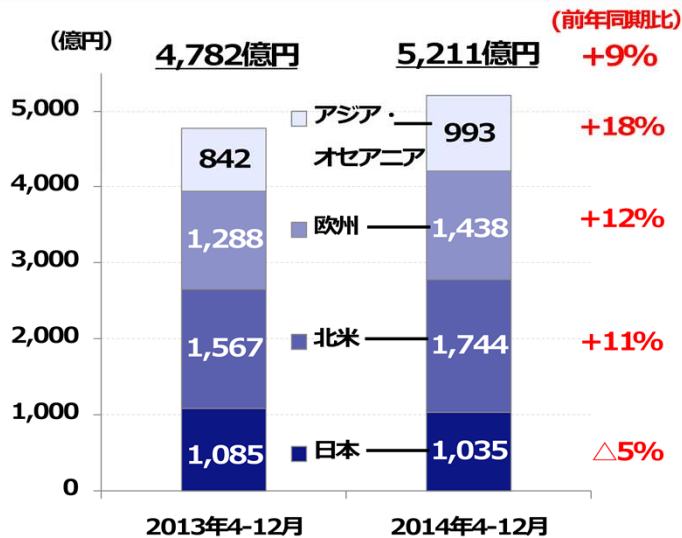
9

- その映像事業の第3四半期の損益状況について少し補足いたします。
- 下半期の業績目標達成に向け、広告宣伝費などのコスト削減に取り組んだ結果、10-12月期の販管費率は従来の見通しから約3ポイント改善しています。
- この結果、売上規模が減少する中で、損失拡大に歯止めをかけることができました。
- 来期に向けては、年間で800億円を下回る程度の売上規模を前提に計画を立てる予定であり、さらに販管費を中心としたコスト削減に取り組んでまいります。

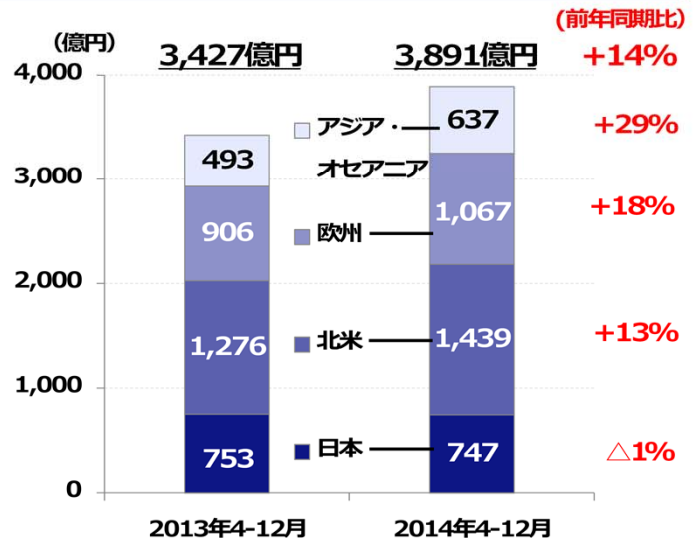
2015年3月期 第3四半期実績 ⑥地域別売上高

- ◆ 海外で好調な医療事業が牽引し、日本を除く全地域で増収
- ◆ 日本は補選総選挙の影響により、一時的に予算執行が停滞

連結 (4-12月)^(※)



医療 (4-12月)



2015/2/6 No data copy / No data transfer permitted

(※) グラフは主要3事業 (医療、科学、映像) の数値合計 10

- 売上高の地域別の状況です。
- 連結ベースでは、国内を除く全地域で増収となっています。
- 国内は、医療事業や科学事業において衆議院解散総選挙による一時的な予算執行の遅れが見られたことに加え、映像事業の売上減少が主な減収要因です。
- 右側のグラフは医療事業ですが、こちらも日本を除く全地域で増収です。北米 13%増、欧州 18%増、アジア・オセアニア 29%増と、全社業績の大きなドライバーとなっています。

2015年3月期 第3四半期実績 ⑦進捗状況（社内計画比）

医療	売上高	国内において解散総選挙による予算執行の遅れが見られたものの、北米、欧州、中国が堅調に推移し、全分野で計画を若干上回る実績
	営業利益	戦略投資を進める外科で若干の未達となったものの、収益性の高い消化器内視鏡と処置具が好調に推移し、全体では計画を若干上回る実績
科学 ※	売上高	国内のライフ分野が未達となったものの、市場の活性化によって北米が好調に推移し、全体では計画に沿った進捗
	営業利益	売上高の達成に加えて、原価改善、販管費削減等により、計画を若干上回る進捗
映像	売上高	コンパクトは計画通りだったものの、ミラーレスの未達により、全体では計画下振れ
	営業利益	原価の低減や販管費を削減したものの、ミラーレスの売上高の未達により、計画下振れ

2015/2/6 No data copy / No data transfer permitted

(※) 「ライフ・産業」のセグメント名称を「科学」に変更 11

- こちらは、第3四半期の社内計画に対する進捗状況を纏めたものです。
- まず、医療事業ですが、国内において解散総選挙による一時的な売上停滞の影響が見られましたが、北米、欧州、アジア、中国などにおいて堅調に推移し、売上高、営業利益ともに計画を若干上回る実績となりました。
- 科学事業の売上高ですが、国内で公的機関の予算執行遅れが見られましたが、北米市場の活性化によって全体では順調な進捗となりました。営業利益は、継続的な原価改善や、海外拠点の統廃合等による販管費の圧縮によって、計画を若干上回る結果となりました。
- 映像事業ですが、利益面では、原価低減や販管費削減などをおこないましたが、ミラーレスの売上高の未達により、売上高、営業利益ともに社内の計画を下回りました。

連結貸借対照表 (2014年12月末)

- ◆ 財務体質はより一段と安定化 (自己資本比率 : 38.6% / 有利子負債 : 488億円圧縮)
- ◆ 課題は、ミラーレスを中心としたデジカメ在庫の圧縮

(単位 : 億円)	2014年 3月末	2014年 12月末	増減額		2014年 3月末	2014年 12月末	増減額
流動資産 (デジカメ在庫)	5,765 (217)	5,848 (292)	+83 (+75)	流動負債	2,763	2,945	+182
有形固定資産	1,354	1,510	+155	固定負債 (内 : 社債・長期借入金)	4,199 (3,468)	3,669 (2,854)	△530 (△614)
無形固定資産	1,736	1,873	+138	純資産	3,313	4,183	+870
投資その他資産	1,420	1,565	+146	(自己資本比率)	(32.1%)	(38.6%)	(+6.5pt)
資産合計	10,275	10,797	+522	負債純資産合計	10,275	10,797	+522
				有利子負債 :	3,671億円 (2014年3月末比 △488億円)		
				純有利子負債 :	1,506億円 (2014年3月末比 △131億円)		

2015/2/6 No data copy / No data transfer permitted

12

- バランスシートの状況です。
- 自己資本比率ですが、円安により為替換算調整勘定が改善したことに加え、4-12月期に四半期純利益を319億円計上したことを主な要因として、2014年3月末比で6.5ポイント上昇し、38.6%となりました。また、有利子負債は、総額で3月末から488億円減少の3,671億円、純有利子負債も131億円減の1,506億円となっています。
- なお、デジタルカメラの在庫については、引き続き課題と認識しております。金額ベースで、約8割はミラーレスの在庫ですが、第4四半期、また来年度以降の継続的な販売と、生産面のコントロールにより、徐々に削減を進めて参ります。

連結キャッシュフロー計算書 (2014年4月～2014年12月)

(単位：億円)	2014年3月期3Q	2015年3月期3Q	増減
売上高	5,137	5,500	+363
営業利益	499	621	+122
(%)	9.7%	11.3%	+1.6pt
営業CF	438	358	△80
投資CF	△139	△215	△76
財務CF	△217	△577	△360
キャッシュフロー	82	△434	△516
フリーキャッシュフロー	299	142	△157
現金及び現金同等物期末残高	2,484	2,164	△320
減価償却費	261	299	+38
のれん償却額	70	69	△1
設備投資額	263	278	+15

2015/2/6 No data copy / No data transfer permitted

13

- キャッシュフローの状況です。
- 営業キャッシュフローは、好調な医療事業から創出される利益を中心に358億円を確保しました。
- 投資キャッシュフローは、主に設備投資に関連する支出により、215億円のマイナスでした。
- 以上によりフリーキャッシュフローは、142億円のプラスとなりました。
- 財務キャッシュフローは、長期借入れ金を返済したことを中心として、マイナス577億円となりました。

2015年3月期 通期業績見通し

- それでは、2015年3月期通期の業績見通しについてご説明いたします。

2015年3月期 通期業績見通し

◆ 連結ベースの進捗は予定通り、通期見通しは計画値を据え置き

(単位：億円)	2014年3月期 (実績)	2015年3月期 (見通し)	増減額	前期比
売上高	7,133	7,600	+467	+7%
営業利益 (営業利益率)	734 (10.3%)	880 (11.6%)	+146 (+1.3pt)	+20%
営業外収支	△225	△180	+45	-
経常利益 (経常利益率)	509 (7.1%)	700 (9.2%)	+191 (+2.1pt)	+38%
当期純利益 (当期純利益率)	136 (1.9%)	450 (5.9%)	+314 (+4.0pt)	+230%
円/US\$	100円	109円	9円 (円安)	
円/Euro	134円	139円	5円 (円安)	
売上高への影響額	-	+354億円		
営業利益への影響額	-	+123億円		

2015/2/6 No data copy / No data transfer permitted

15

- この第3四半期までの連結業績の進捗は、ほぼ想定どおりに推移しており、前回11月の公表値から変更ございません。
- 売上高は前年同期比7%増の7,600億円、営業利益は20%増の880億円、当期純利益は約3倍の450億円となる見通しです。
- 第3四半期までに和解金等として、約75億円の特別損失を計上しておりますが、好調な事業利益等を主因に、これらを吸収し、当期純利益は期初からの目標値450億円を確保できる見込みです。

2015年3月期 セグメント別業績見通し

◆ 各セグメントも計画値を据え置き

(単位：億円)		2014年3月期 (実績)	2015年3月期 (見通し)	前期比
医療	売上	4,923	5,480	+11%
	営業利益	1,127	1,185	+5%
科学	売上	985	1,040	+6%
	営業利益	49	50	+1%
映像	売上	961	900	△6%
	営業利益	△ 92	△ 75	-
その他	売上	264	180	△32%
	営業利益	△ 54	0	-
全社・消去	売上	-	-	-
	営業利益	△ 297	△ 280	-
連結合計	売上	7,133	7,600	+7%
	営業利益	734	880	+20%

- 各セグメントも、前回11月に公表した計画値を据え置いています。
- 引き続き成長が見込まれる医療事業において、増収、増益を確保すると共に、映像事業の営業損失改善を目指します。

戦略的事業拡大実現に向けた経営体制強化



2015/2/6 No data copy / No data transfer permitted

(※) 説明に合わせて、簡略化・省略化した組織体制図となっております 17

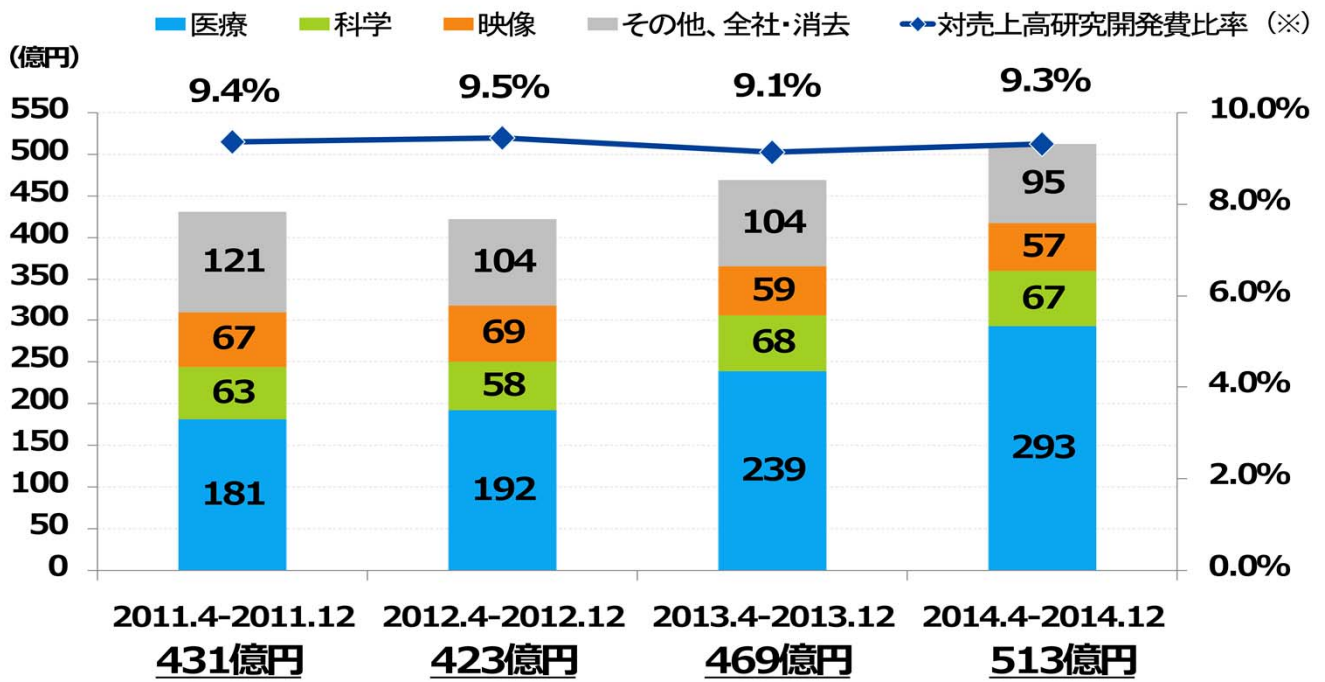
- 次に、先日発表した2015年4月以降の新組織体制について少しご説明します。
- 新組織体制では、事業軸と機能軸をバランスよく融合させて全社経営資源の最大活用を目指す「マトリックス型」の事業運営に変革し、戦略的な事業拡大を目指します。
- 具体的な強化ポイントはこちらの4点です。
- 1点目は、今後、成長が期待される医療事業において、あらたな事業ユニットを拡充します。戦略的重点領域である泌尿器科・婦人科、耳鼻科、医療サービスでの取り組みを強化し、事業拡大を図ります。
- 2点目は、これまで各事業分野に分散していた各機能を再編し、全社の経営資源を最大限に有効活用します。これによって、従来は難しかった事業横断的な要員の最適配置を柔軟且つスムーズに行なうことや、事業共通の基盤技術強化など、当社が有するポテンシャルを最大限に発揮できる体制を実現します。
- 3点目は、その機能部門の一つとして販売部門を新設します。各地域における顧客接点を強化するため、グローバルな販売戦略の展開と、ベストプラクティスの共有化を図ります。
- 4点目ですが、新規事業領域の拡大、新規ビジネスの開拓、M&A案件の発掘に向けて、事業開発室を新設します。
- 来期は、この新しい経営体制のもとで2016年4月スタートの新中期経営計画を策定し、医療事業のさらなる成長や、映像事業の構造改革を図り、新たな成長ステージに進んでいきたいと考えております。

OLYMPUS

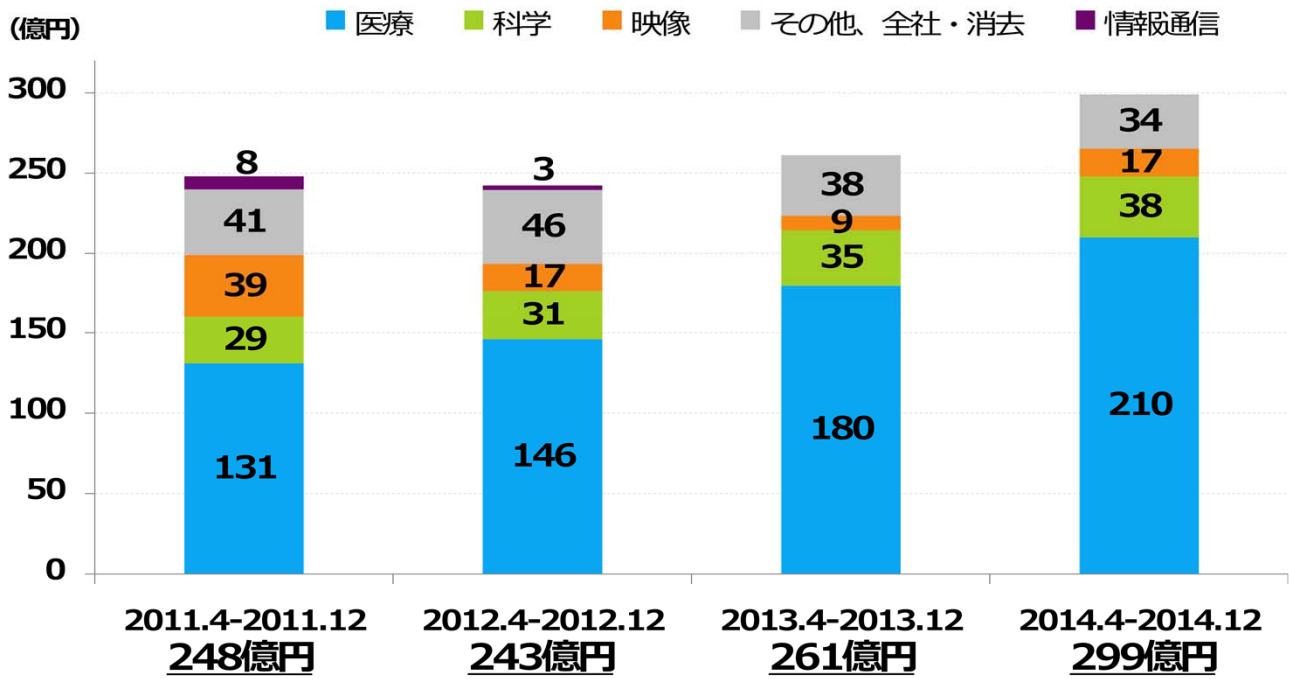
- 私からは以上です。
- 引き続き、ご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

参考資料

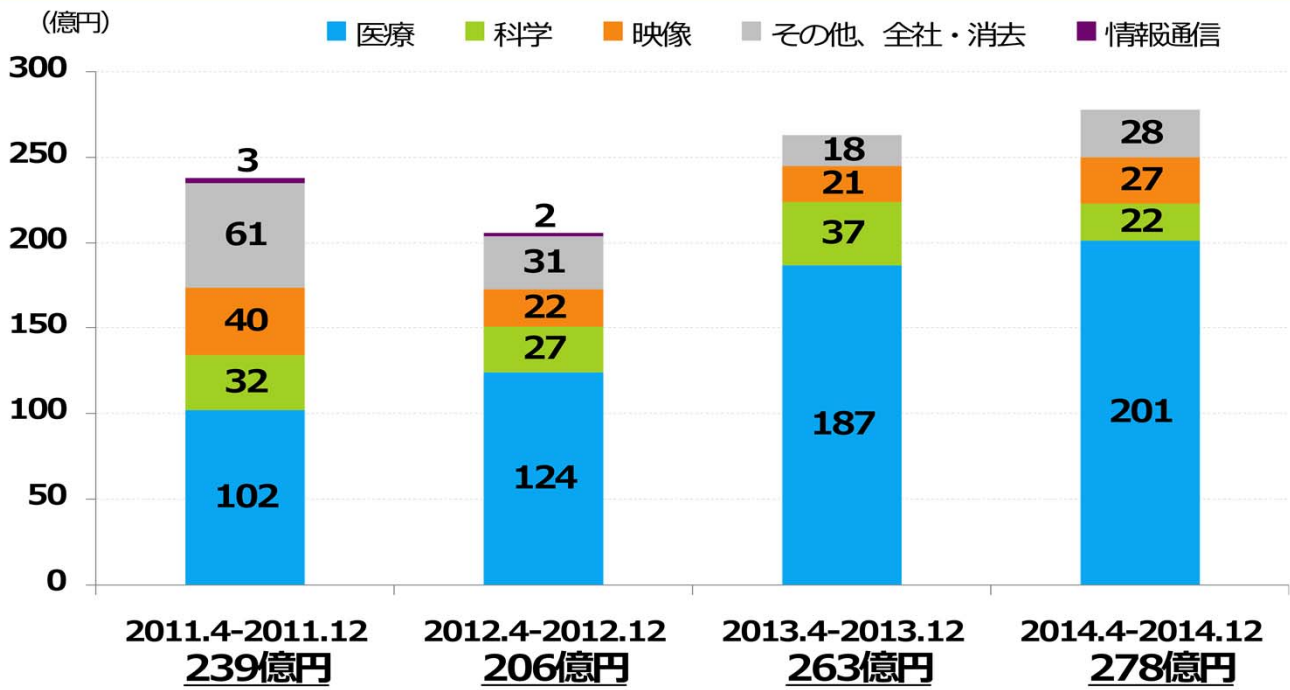
【参考資料】 研究開発費



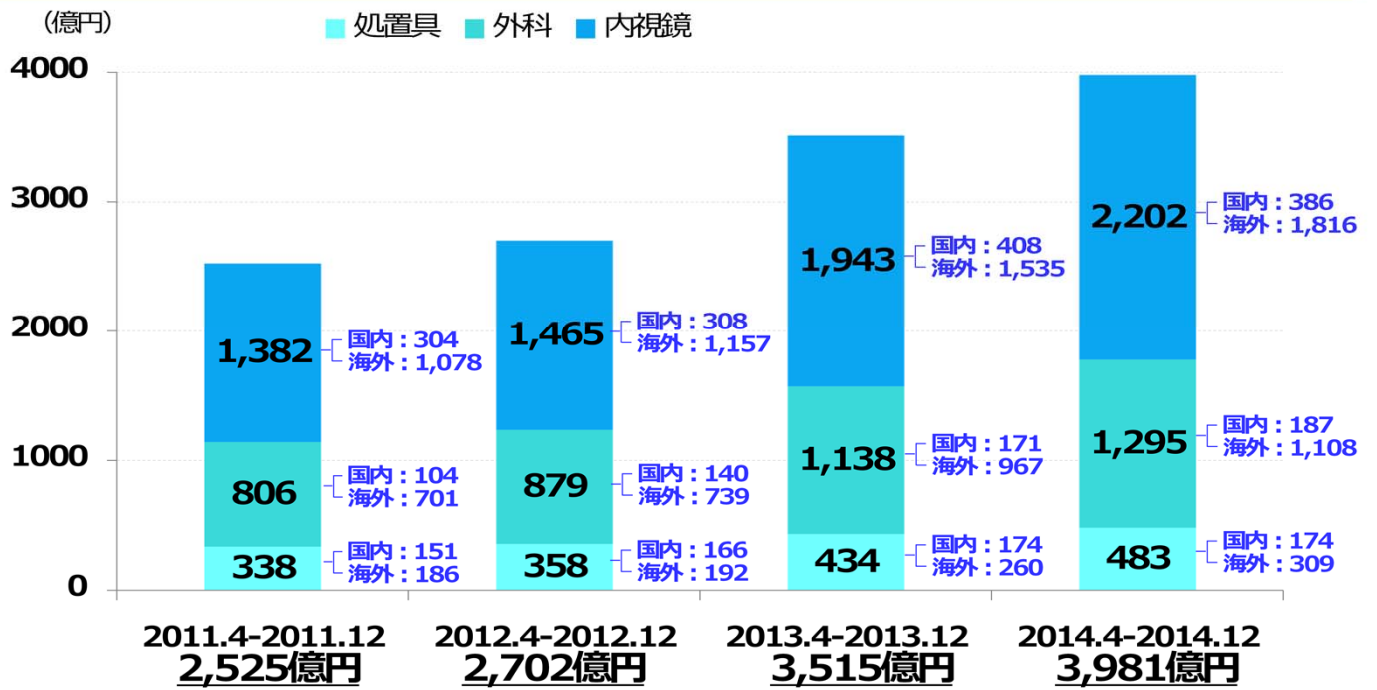
【参考資料】 減価償却費



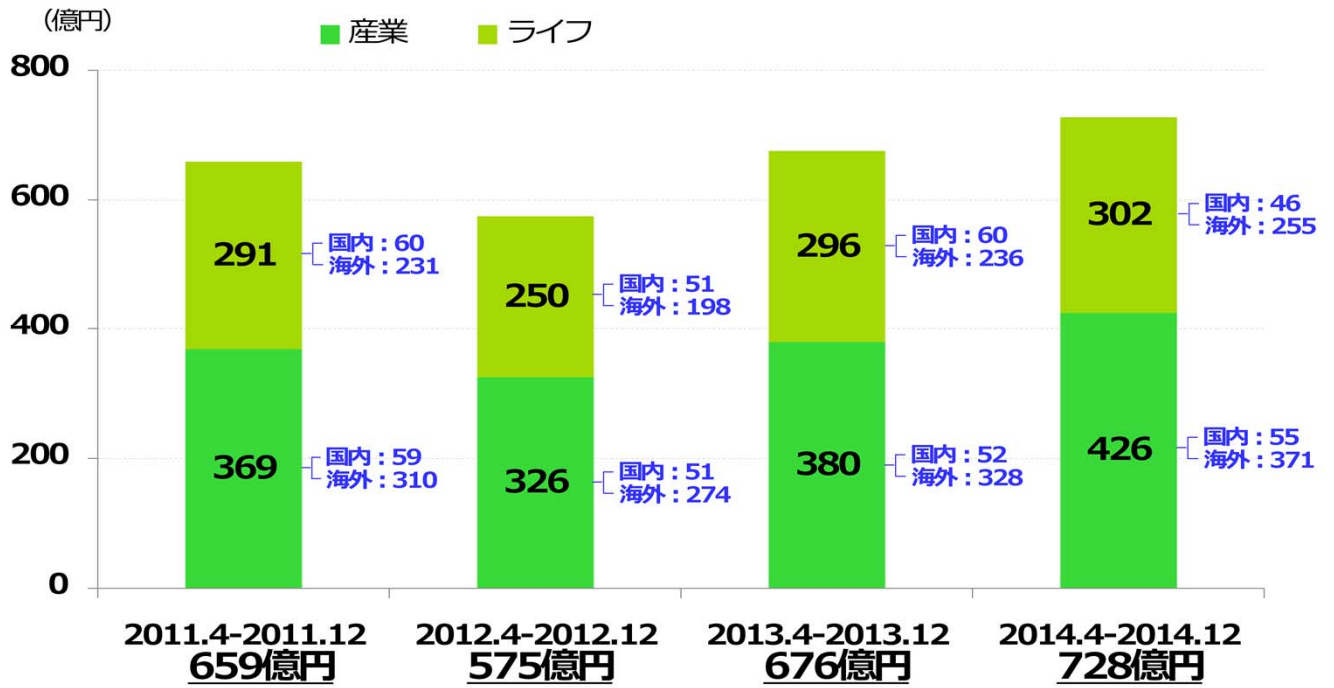
【参考資料】 設備投資



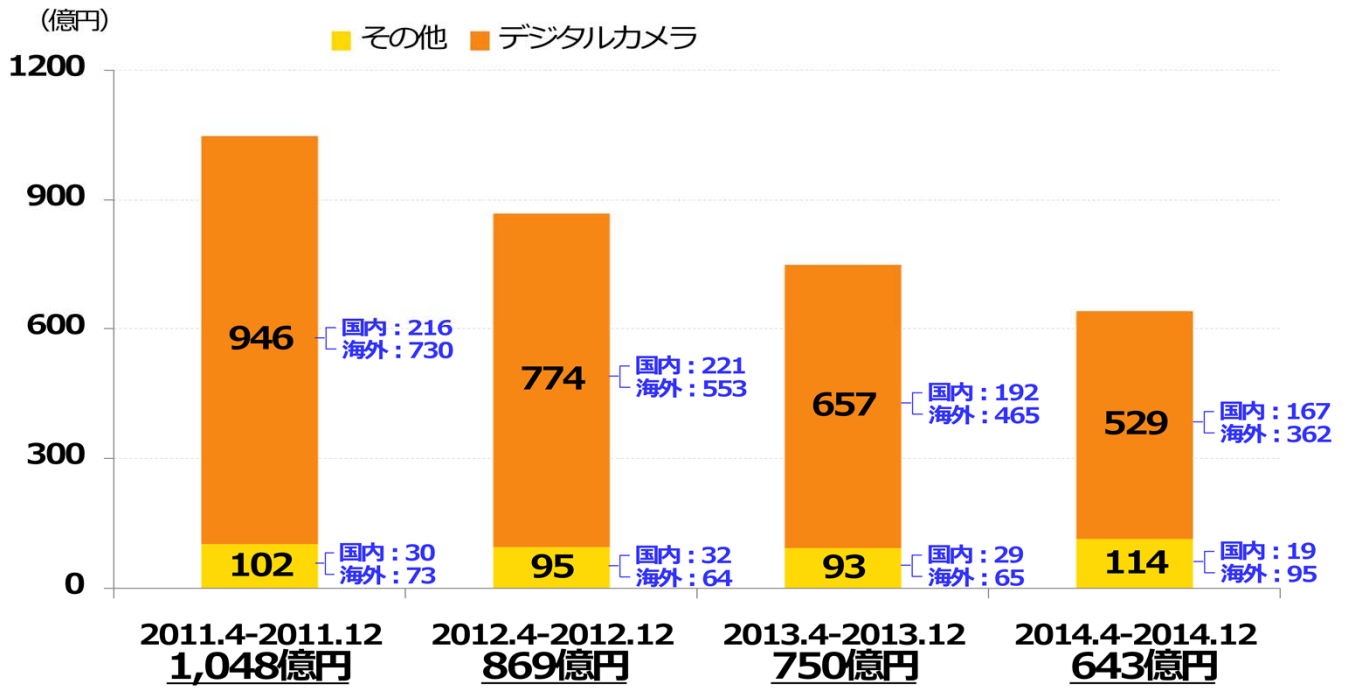
【参考資料】 分野別売上高 (医療)



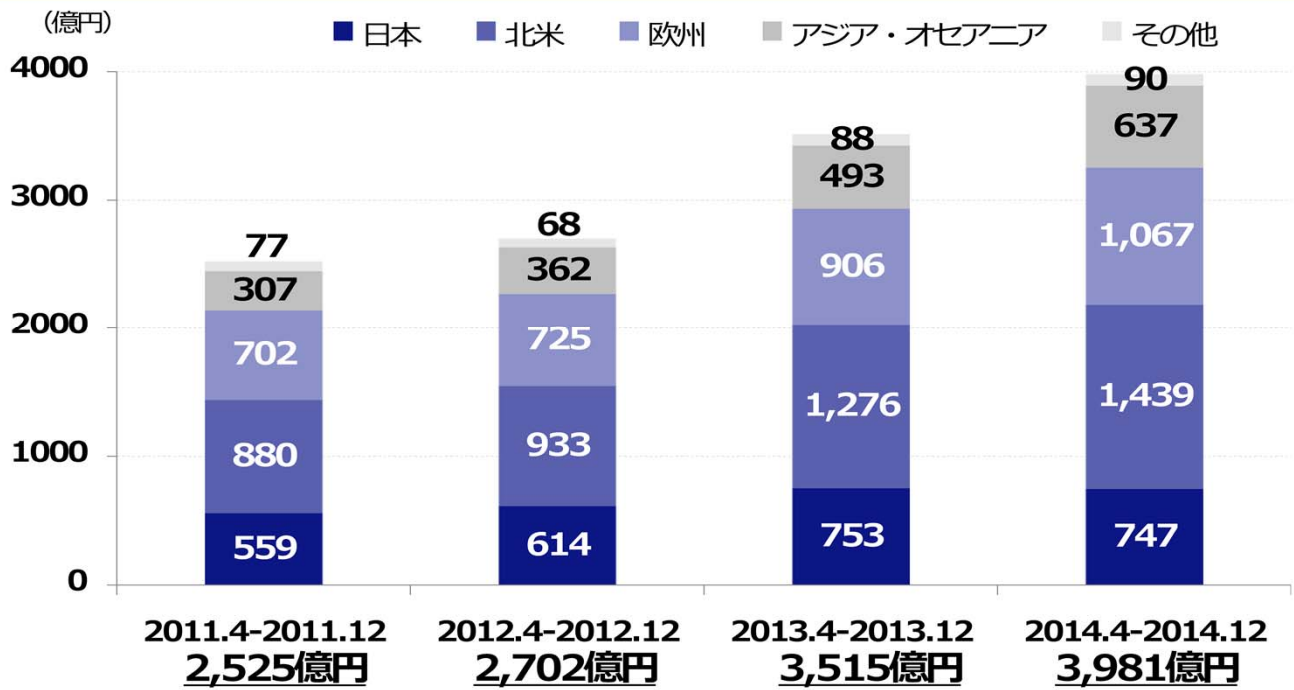
【参考資料】 分野別売上高 (科学)



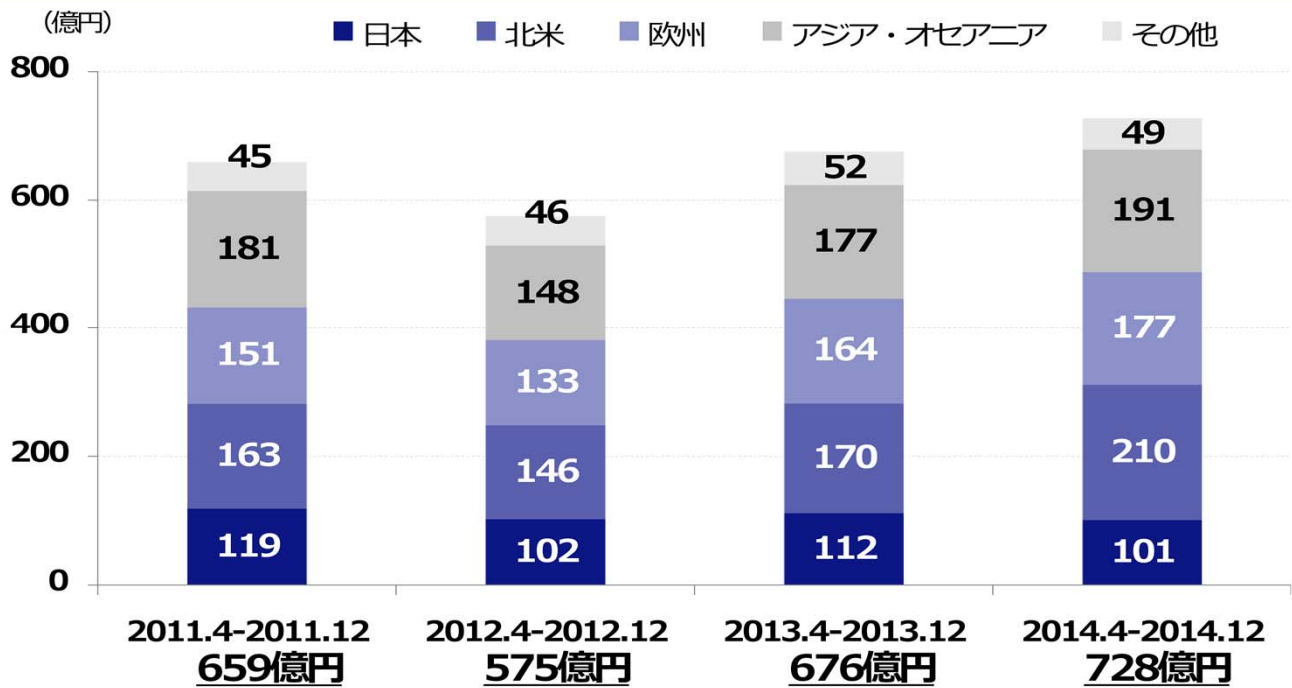
【参考資料】 分野別売上高 (映像)



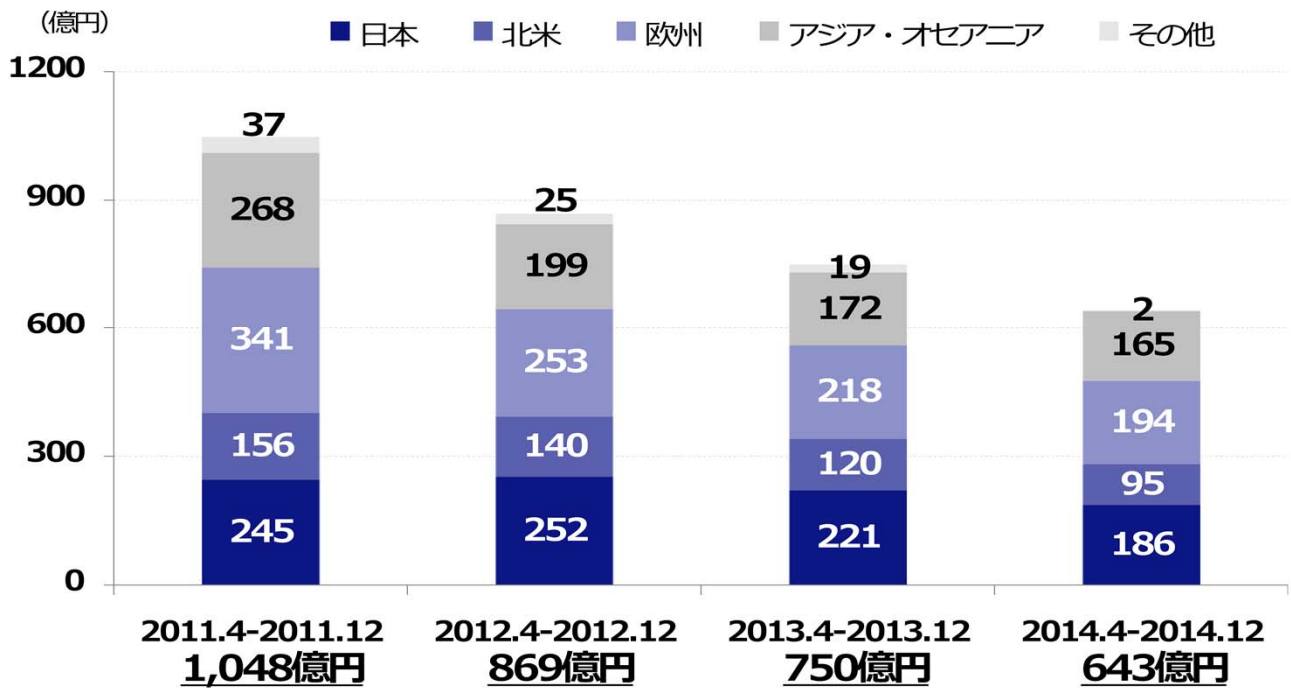
【参考資料】 地域別売上高 (医療)



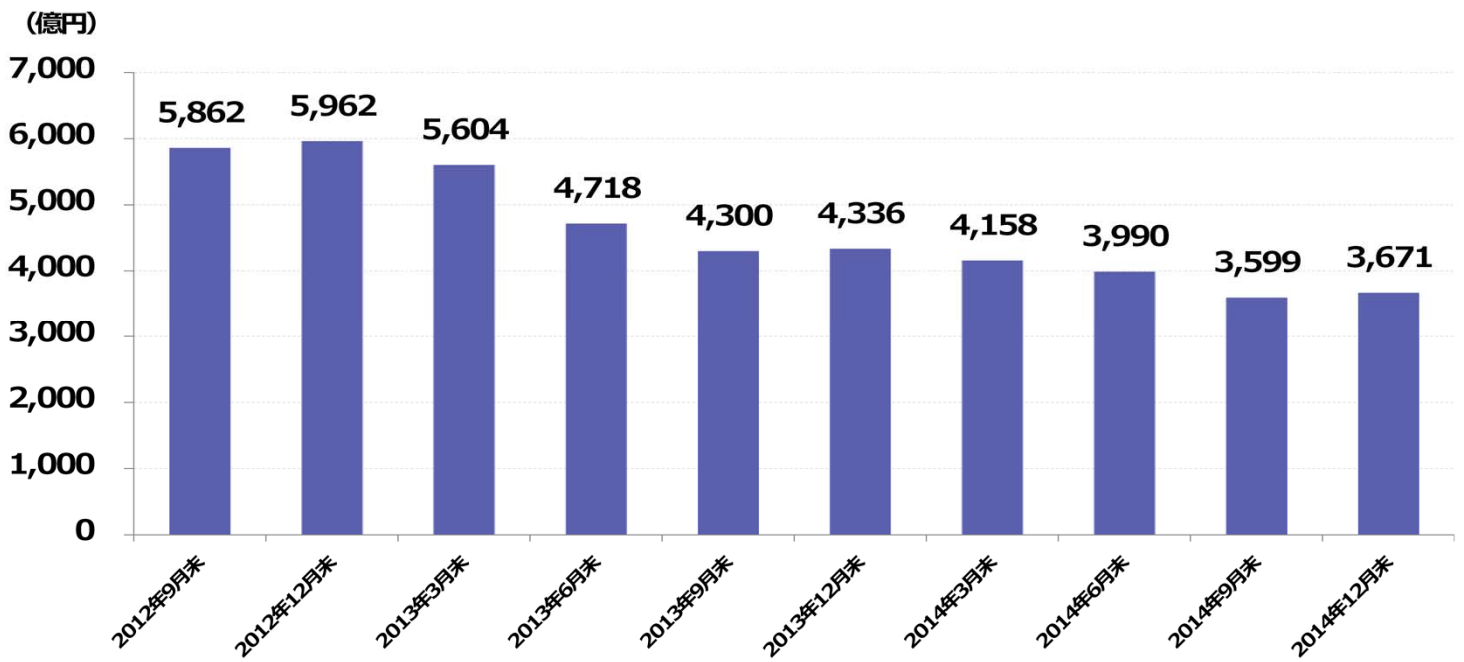
【参考資料】 地域別売上高 (科学)



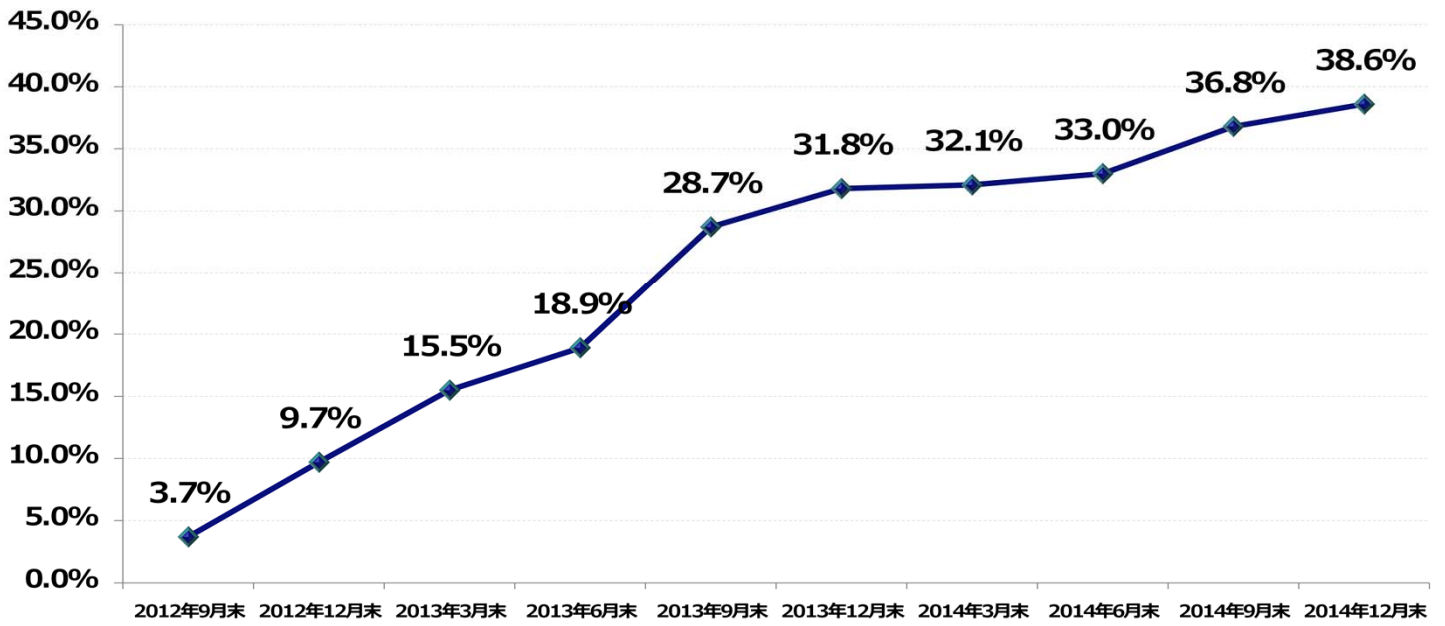
【参考資料】 地域別売上高 (映像)



【参考資料】 有利子負債



【参考資料】 自己資本比率



【参考資料】中期経営計画（連結予測値）

	2014年3月期 (実績)	2015年3月期 (予測値)	2017年3月期 (予測値)
売上高	7,133億円	7,600億円	9,200億円
営業利益 (営業利益率)	734億円 10%	880億円 12%	1,430億円 16%
経常利益 (経常利益率)	509億円 7%	700億円 9%	1,250億円 14%
当期純利益 (当期純利益率)	136億円 2%	450億円 6%	850億円 9%

OLYMPUS

- 本資料のうち、業績見通し等は、現在入手可能な情報による判断および仮定に基づいたものであり、判断や仮定に内在する不確定性および今後の事業運営や内外の状況変化等による変動可能性に照らし、実際の業績等が目標と大きく異なる結果となる可能性があります。
- また、これらの情報は、今後予告なしに変更されることがあります。従いまして、本情報及び資料の利用は、他の方法により入手された情報とも照合確認し、利用者の判断によって行って下さいますようお願い致します。
- 本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。